ネットワークネットワークネットワークネットワークネットワークネットワークネットワークネットワークネットワーク

下都賀地区生涯学習研究会機関紙　第４５号

ネットワーク

平成２９年　３月
発　行　下都賀地区生涯学習研究会
事務局　下都賀教育事務所ふれあい学習課内
Tel　0282-23-3422
Fax　0282-23-3502
E-mail
shimotsuga-kyouiku@pref.tochigi.lg.jp

今年度で本会を御勇退されます壬生中学校 鈴木 校長先生、大谷東小学校 小山 校長先生より会員に向けたメッセージを寄稿いただきました。諸先輩方より引き継がれたバトンを大切につなぎながら、下都賀地区の生涯学習・社会教育の一層の推進に向け、今後も会員の皆さんとのネットワークを築いていければ幸いです。

会員へのメッセージ

我が人生に悔いなし

下都賀地区生涯学習研究会 顧問
壬 生 町 立 壬 生 中 学 校 校長　鈴木　正俊

今年、平成２９年３月３１日をもって定年により教員生活に幕を下ろすことになった。思い返せば、波乱に満ちた教員生活だったと振り返る。普通の教員は、定期異動により何校かの学校を渡り歩き定年退職を迎えると思うが、私の場合は足かけ約１２年間の栃木県教育委員会事務局勤務があり、そこでの勤務は他の教員では経験できないものとなっている。補職名だけをとっても、普通の教員は教諭・教頭・校長と３つの補職しか経験できない。私の場合教諭・指導主事・主査・社会教育主事・副主幹・教頭・副主幹兼課長・所長補佐兼課長・校長と９つの補職を経験した。そもそもの始まりは、平成６年度の社会教育主事講習からである。その３年後、県教育委員会事務局生涯学習課勤務を命ぜられ併任辞令で生活環境部女性青少年課(現在の人権・青少年男女参画課)での勤務から波瀾万丈となったと思われる。ともあれ、我が教員人生に悔いなし。

会員へのメッセージ

「お世話になりました！そして、すみませんでした！」

下都賀地区生涯学習研究会　会長
小 山 市 立 大 谷 東 小 学 校　校長　小山　義雄

『こんにちは！小山市立大谷東小学校校長、小山義雄（おやま よしお）です。１年間、どうぞよろしくお願いいたします。』と、この「ネットワーク」でご挨拶してからもう１年間が過ぎようとしています。何も会長らしいこともできず退職を迎えますこと、申し訳なく思っています。すみませんでした。

さて、子どもの「生きる力」の育成は、学校教育の中だけではなく、異なる世代の人々や他の家庭など様々な人々と交流し、地域社会等における体験とあいまって育まれていくものです。また、社会全体の教育力向上のために、学校・家庭・地域住民等の連携がこれまで以上に求められています。ですから、各学校に地域連携教員が配置されたように、学校に勤務している「社会教育主事有資格者」の有り様が、大きく問われているように思うのです。

今後も、教育現場で勤務されている方々には、学校長の求めに応じて学校と地域の方々が連携して行う教育活動に積極的にかかわり、学社の連携を一層進めていくことができるよう、活躍していただけることを期待しております。

また、行政に携わっていらっしゃる方々には、社会教育行政の中核として、社会教育が果たすべき役割が増大する中、その期待に的確に応えていただけることをお願いいたします。

最後になりますが、皆様の益々の御活躍をお祈りするとともに、この研究会が社会教育主事有資格者達の拠り所として、より一層充実したものになることを祈念しております。

ネットワークネットワークネットワークネットワークネットワークネットワークネットワークネットワークネットワーク

リレー「となりの社教主事 39」

「社会教育主事と社会福祉主事の資格を活かして」

栃木市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習課
課長補佐兼生涯学習係長兼社会教育主事　髙橋　宏樹

一昨年４月に９年ぶりに生涯学習課勤務となりました。その間は福祉部門に８年勤務し、その職務内容の違いに戸惑いを感じたところです。

福祉部門では、家庭で行われるべき躾が行われていないケースを目の当たりにし、福祉の立場で支援を行っていました。教育委員会に戻ったことにより、改めて家庭教育の重要性を痛感したところです。

福祉部門を経験する前は、社会教育については、学びを支援することが重要であると考えていましたが、現在では、学びを支援することにより貧困の連鎖を断ち切ることが出来るのではないかと考えが改まりました。今後は、学習機会を提供することにより、貧困の連鎖を断ち切り、誰もが幸せを感じ取れる学習社会を築くことに貢献したいと考えています。

雑　　感

「野球を通して感じたこと」

小山市立小山第三中学校 教諭　飯村　節男

昨年本校野球部は、栃木県総合体育大会を制覇し、地元開催の関東大会に出場することができました。このような成績が収められたのは、生徒の頑張りはもちろんのこと、父母の会の強力なサポートがあったからだと思います。また、地域の皆様からの温かい御声援・御支援も大きなエネルギーになりました。大会や練習試合では、保護者のみならず、大勢の祖父母が応援に来てくれます。さらに、本校区には「第三学区学童野球クラブ」という組織があり、学区内の学童野球チームや三中野球部に対して、物心両面にわたって多大なる御支援をいただいています。このように本校区では、『地域の子どもを地域で育てる』ということが、根強く行われているのです。

近年の少子化・核家族化による家族形態の変化や、人間関係の希薄化が進行するなど、子どもたちに多くの大人が関われない現実があります。しかし、私は野球というスポーツを通して、地域の教育力の素晴らしさを改めて実感することができました。

学校を応援したーい 11

「『大宮地区女性会』の取組から」

栃木市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習課
副主幹兼社会教育主事　早乙女　豊

栃木市では、栃木市型教育システム「とちぎ未来アシストネット」を推進しています。これは、学校・家庭・地域の連携・協力を組織的に発展させ、より効果的に「学校支援（教育の充実）」や「地域の絆づくり」等を図る教育システムです。本事業の活用により、本市小中学校４４校で、多くの地域住民が学校支援ボランティアとして活躍されています。

今回ご紹介します「大宮地区女性会」の活動は、青少年の健全育成に努め、住みよいまちづくりを目指しながら、今年で活動６８年を迎え、地域の小中学校への学習支援にも力を入れています。ここ数年の支援活動としては、環境整備や伝承料理、防災訓練の協力や家庭科授業での学習支援など幅広く活動されており、現在６２名の方が会に所属しておられます。

大宮公民館が地域アシストネット本部となり、各小中学校には、学校と地域をつなぐ地域コーディネーターがいます。「大宮地区女性会」は、地域の宝である子どもたちを支援していこうと、これからも学校の力強い応援団として活躍していきます。

【情報提供の御協力…大宮地区女性会、地域コーディネーター、東陽中学校、大宮公民館の皆様】

【うどん作り支援】

【刺し子支援】

第３回研修会報告

１月１９日（木）、栃木県庁小山庁舎において平成２８年度第３回研修会を開催しました。前半は特定非営利活動法人「まちと学校のみらい」代表理事 竹原和泉氏に「学校・家庭・地域の連携・協働」をテーマとした講話をいただきました。後半は、所属市町単位でのグループ協議とし、お互いの顔が見える関係の中、活発な意見交換が行われました。それぞれの市町ごと、共に今後の取組の方向性を考え、改めてネットワークの重要性に気付く機会となりました。

【編 集 後 記】　先日、来年度の学校支援ボランティアの募集を行ったところ、登録してくださった方は３人。募集の仕方については改善が必要だが、まずは３人からでもスタートしていきたいと思う。小さな地道な活動から、少しずつ人の輪が広がり、みんなで子どもたちの幸せを考えていく。そのことが関わった人の生きがいにつながっていく。そんな温かい地域連携を目指していきたい（Ｓ）。

情報交換“地域連携”

○地域連携ってどんなことをするの？
○会員同士で情報交換をしていきましょう！

「学校と地域をつなぐ交流活動」

野木町立野木中学校 教諭　中島 康成

野木町では、「小さくてもキラリと光る町」がスローガンになっています。小さな町だからこそ、小・中学生と町民が一体となった全町的な行事が数多く行われています。そのいくつかを紹介します。

７月には「ひまわりフェスティバル」が開催され、本校でも吹奏楽部の演奏などで参加しています。１月に行われる「野木町駅伝大会」では、世代を超えてたくさんの参加者や応援者が集い、町を挙げての交流の場となっています。また、地域のお祭りや福祉施設との交流もあり、和太鼓の演奏やグランドゴルフなどでのふれあいが行われています。

小中学生が中心となって行う活動としては、「キラリ・クリーン活動」があります。今年で６年目となった活動ですが、町内全小中学生が参加し、各自治会の方の協力もいただいて町内のクリーン活動とレクリエーションを一緒に行う活動です。今年度は、１１月２６日（土）に実施されました。本校の生徒たちも小学生のときから毎年参加しており、中学生となった今では、自然とリーダーシップを発揮したり、小さな子の手助けをしたりする姿が見られました。

野木中学校の素晴らしい学習環境は、町や地域の方々の支援のおかげだと実感しています。これからも、学校は地域社会の一員であるということを心にとめて、活動していければと考えています。

【和太鼓の演奏】

【キラリ・クリーン活動】

「本校の地域連携事業について」

栃木県立石橋高等学校 教諭　山﨑 浩之

今年度から本校の地域連携教員になりました。しかし、本校がどんな地域連携事業をしているのかを把握できていませんでした。そこで、年度当初に本校の状況を把握するために、調査を行いました。その結果、本校で合計９つの機会に地域連携事業を行っていることが分かりました（表１）。そして、合計１８の事業を行っていることも分かりました（表２～表４）。

今年度、地域連携教員として新たに始めた校内事業は、下野市内唯一の高等学校という特徴を生かし、市内４中学校に本校の部活動を公開することで、本校と市内４中学校が部活動を介してつながるということです（表５）。つながる方法は各顧問に一任されますが、部活動という既存の枠組みを無理のない範囲で活用することで、市内４中学校と連携した合同練習や練習試合などが可能になります。様々な活動を中高生が一緒に行い、本校生と市内中学生に良い経験の機会を与えることになると思います。

【石橋高と石橋中の陸上部合同練習】

【表１　連携事業の機会】

授　業	1
委員会	4
部活動	4

【表２　連携事業の場所】

下野市内	１５
下野市外	3

【表３　連携の対象】

学校関連	8
地域社会	１０

【表４　学校関連の内訳】

特別支援	5
義務教育	2
専門学校	1

【表５　部活動公開の内訳】

運動部	9
文化部	5
同好会	2

【石橋高と石橋中の陸上部合同練習】